

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第2号

果樹

発行日 平成21年 4月23日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんごの開花は、平年より早まる予想！！
- ◆ 防霜対策・結実確保対策を万全に！！
- ◆ 腐らん病が増加傾向！早期発見・早期治療の徹底を！！

りんご

1 生育概況

定点観測地点の調査結果(表1)によると、発芽期はほぼ平年並みでしたが、4月第2～3半旬の高温で急速に生育が促進され、展葉期では平年よりも5日前後生育が進んでいます。

現在、県内全域で展葉期を過ぎており、今のままで生育が進むと、県中南部では4月第6半旬～5月第1半旬に、県北部でも5月第1～2半旬には開花始期を迎える可能性があります。

一般に展葉期を過ぎて開花期に近づくほど凍霜害を被る危険性が高くなり、今年のように生育の早い年はそのリスクが高くなりますので、毎日の気象情報に注意し、凍霜害に対する事前対策の徹底を図りましょう。

表1 ふじの発芽・生態の状況(4月22日時点)

市町村	地区	発芽日(月/日)			発芽日の平年・前年差(±日)		展葉日(月/日)			展葉日の平年・前年差(±日)		開花始期(月/日)	
		本年(H21)	平年	前年(H20)	平年差	前年差	本年(H21)	平年	前年(H20)	平年差	前年差	平年	前年(H20)
岩手町	一方井	4/12	4/12	4/3	0	9	4/19	4/23	4/18	-4	1	5/11	5/4
盛岡市	三ツ割	4/8	4/10	4/2	-2	6	4/13	4/19	4/11	-6	2	5/8	5/1
紫波町	長岡	4/6	4/8	3/30	-2	7	4/11	4/18	4/11	-7	0	5/7	4/30
花巻市	中根子	4/7	4/8	3/31	-1	7	4/13	4/17	4/9	-4	4	5/6	4/30
北上市	立花	4/7	4/7	3/31	0	7	4/13	4/17	4/9	-4	4	5/6	4/30
奥州市	前沢区稲置	4/5	4/4	3/27	1	9	4/11	4/14	4/7	-3	4	5/3	4/29
	江刺区伊手	4/8	4/10	4/2	-2	6	4/14	4/20	4/14	-6	0	5/8	5/2
一関市	花泉町金沢	4/7	4/7	3/30	0	8	4/13	4/17	4/10	-4	3	5/6	5/1
	大東町大原	4/9	4/10	4/3	-1	6	4/14	4/18	4/12	-4	2	5/7	5/2
陸前高田市	米崎	4/5	4/6	3/30	-1	6	4/10	4/13	4/7	-3	3	5/4	5/1
宮古市	崎山	4/8	4/7	4/5	1	3	4/12	4/18	4/15	-6	-3	5/8	5/3
岩泉町	乙茂	4/9	4/9	4/6	0	3	4/15	4/20	4/16	-5	-1	5/7	5/3
洋野町	大野	4/12	4/15	4/8	-3	4	4/20	4/24	4/21	-4	-1	5/12	5/7
軽米町	高家	4/10	4/12	4/6	-2	4	4/16	4/22	4/17	-6	-1	5/10	5/5
二戸市	釜沢	4/9	4/10	4/4	-1	5	4/17	4/19	4/16	-2	1	5/8	5/2
県平均(参考)		4/8	4/9	4/2	-1	6	4/14	4/18	4/12	-5	1	5/7	5/2

3 凍霜害対策

降霜は、無風、晴天の日で、降雨の1～2日後は特に危険性が高く、さらに前日夕方18時の気温が6度以下の場合には要注意です(図1)。但し、強い放射冷却現象が起きた場合は、前日夕方が10℃以上でも翌朝の最低気温が2℃以下になる場合もあるので、時期になったら毎日の気象情報に注意しましょう。

(1) 凍霜害の防止対策

ア 霜溜まりの解消

傾斜地の場合、園地下方の障害物は、霜溜まりを作りやすいので除去します。例えば、園地周囲の防風ネットが冷気の流れをせき止めるような場合は、巻き上げておきましょうか除去します。

低温層の発生位置をできるだけ低くするため、マルチを除去し草刈り等で清耕状態にしておきます。

イ 燃焼法による防止

降霜は、数日間連続することが多いので、燃焼法で対応可能な園地では、燃料を十分準備しておきます。

例) 市販の防霜資材、灯油、霜カット等

火点数は概ね40カ所/10a以上を確保し、風上側に多く配置します。着火は気温が0℃になる直前に行いましょう。

なお福島県では、灯油にせん定枝チップを混用した燃焼法が利用されており、灯油をそのまま燃焼させたときと比較し黒煙の発煙量が少なく、燃焼時間も長くなり、点火性も良く、資材費等の面からも有効で、1.5mの高さで2～4℃の気温上昇が期待できるとされており参考にしてください(表3)。

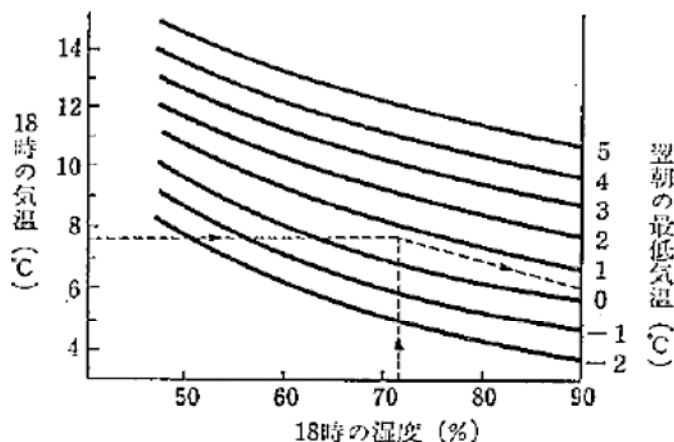


図1 18時の気温、湿度から翌朝の最低気温を推定する図(名古屋地方気象台)

※18時の最低気温が7.5℃で、湿度が72%の場合、翌朝の最低気温は1～0℃と予想できる。また同じ気温でも湿度が低いほど、翌朝の最低気温が低下する。

表3 資材別燃焼法の特徴(福島県)

燃焼資材	点火数 (10a当)	燃焼時間 (時間)	内容物
灯油+せん定枝チップ			
ミルク缶(平棚用)	80	4	灯油2L、せん定枝チップ300g
石油半切缶(立木用)	40	4	灯油5L、せん定枝チップ1Kg
市販防霜資材	50	3	木粉、油脂類混合物

注1 灯油とせん定枝チップを利用した燃焼法は、炎の高さを考慮して立木栽培の場合は石油半切缶を、棚栽培の場合はミルク缶を利用する。

注2 灯油は引火性が強いので燃焼中の給油は絶対行わない。

注3 消防法及び各地域の火災予防条例で、灯油を一定数量以上貯蔵する場合、標識や貯蔵法等について様々な規制や届け出の必要があるので注意する。

ウ 防霜ファンの準備

防霜ファンを設置している園地では、動作の確認、始動温度(2℃)の確認をしておきます。

エ 1 輪摘花を控える

摘花作業は1花そう1花とする「1輪摘花」を避け、数花そうに1花そうを残す「株摘み」とします。

オ 散水氷結法

畑地かんがい施設が整備されている地域では、スプリンクラーかん水による散水氷結法が可能ですので、防霜ファン同様に始動温度の設定等準備しておきます。

(2) 被害発生後の事後対策：被害が発生した場合は次の対策を講じてください

ア 被害状況の確認

凍霜害発生後、被害状況を把握するためにはナイフなどでつぼみや花を割り、内部の状況を肉眼で確認して下さい（図2参照）。確認する内容は、メシベ～胚珠の色が健全か否かです。

そして以下の点を確認し、被害の少ない品種、少ない部位を確実に結実できるように結実対策を実施しましょう。

- ①中心花と側花の被害程度（中心花及び側花は結実可能であるか）
- ②樹上部と目通り高さの被害程度（樹上部の花は結実可能であるか）
- ③傾斜した園地では、園地下部と上部の被害程度
- ④品種毎の被害程度（被害の少ない品種は何か）

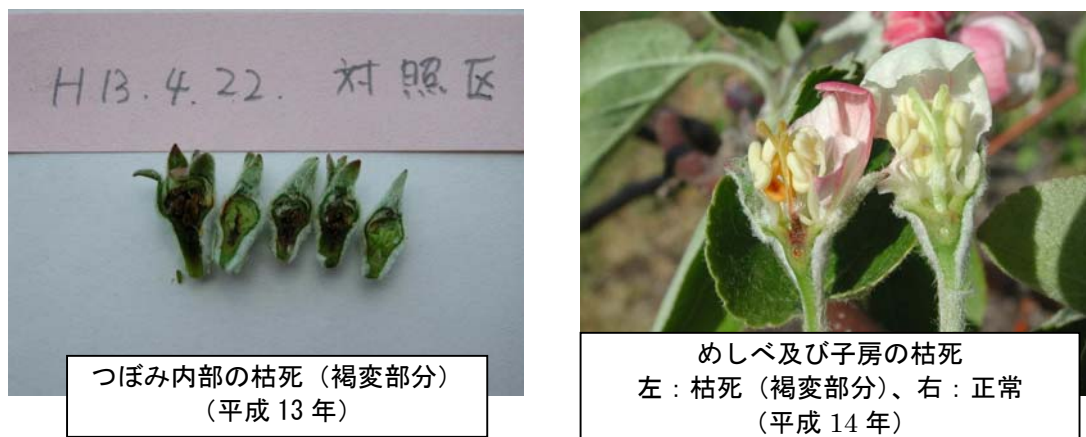


図2 りんご花器の凍霜害の事例

イ 人工授粉の徹底

被害を免れた花を確実に結実させるため、徹底して人工授粉を行います。

ウ 摘花・摘果

摘花作業は慎重、摘果剤の散布も控え、荒摘果は正常なガク立ちと果実肥大を確認後、過剰な着果を除く程度に行います。

(3) おうとうについての事後対策

おうとうは、りんごに比べ開花期が早いので、凍霜害の発生するリスクが高くなります。不幸にして被害が発生した場合は、りんごと同様に被害を免れた花へ人工授粉を実施し結実を確保します。なお、凍霜害によりめしべが褐変したり欠落した花でも、その花粉を授粉用に用いることができますが、授粉樹の被害が大きい場合、開花数が不足することがありますので、授粉用の花粉を購入するなどの準備を進めてください。



図3 おうとうの凍霜害の事例
めしべの褐変枯死（平成13年）

4 栽培管理のポイント

(1) 人工授粉

結実を安定させるため、訪花昆虫導入と併せて、可能な限り人工授粉を実施しましょう。大規模園では、背負い式人工授粉機や羽毛回転型電池式人工授粉機を活用すると効率的です。

花粉は、市販のものを用いる他、親和性のある品種の花（風船状が理想的）を摘み取り、開葯して用いることができます。主要品種の受粉親和性は表4を参考としてください。また開葯した花粉は、乾燥剤とともに密閉容器に入れ、冷凍庫で貯蔵することができます。なお、授粉に使用する花粉は、予め発芽力を検定し希釈倍率を決定します。

表4 主要品種のS遺伝子型（（独）果樹研究所編「リンゴ単植化の手引き」より抜粋）

S 遺伝子型	品 種 名	S 遺伝子型	品 種 名
S 1 S 3	秋映、ぐんま名月、シナノゴールド	S 2 S 7	玉林
S 1 S 3 S 9	ハックナイン	S 2 S 9	はるか、金星、トキ
S 1 S 7	きおう、千秋、シナノスイート	S 3 S 7	つがる
S 1 S 7 S 9	北斗	S 3 S 9	黄香、あいかの香り、陽光、きたろう
S 1 S 9	ふじ、早生ふじ系	S 5 S 7	さんさ
S 2 S 3	ゴールデンデリシャス	S 7 S 9	紅玉
S 2 S 3 S 9	ジョナゴールド	S 9 S 28	スターキングデリシャス

※同じS遺伝子型だと交雑不適合となり、例えば、同じS1S7の遺伝子型を持つ「きおう」「千秋」「シナノスイート」は、それぞれ交雑不適合となり受粉親和性はない。従って人工授粉に用いる花粉は、受粉しようとする品種と異なる遺伝子型を持つ品種を用いる必要がある。

(2) 摘花

貯蔵養分の消耗を抑えるため、摘花を実施します。主に腋芽花や日当たりの悪い部分にある生育の悪い花を花そうごと摘み取ります。

摘花は、早期に余計な花を摘み取ることで大玉生産につながる他、短期間に労力の必要な摘果作業の分散にも有効です。開花数の多い年は、積極的に実施しましょう。

(3) 摘花剤・摘果剤について

摘花・摘果作業の省力化を図り、大玉生産及び隔年結果防止を図るためには、摘花剤・摘果剤の利用が有効です。特に大規模園地や労働力確保が困難など作業の効率化が必要な場合は、これらを効果的に利用し、早期適正着果をはかりましょう。

1) 摘花剤

現在摘花剤として登録のある薬剤は、石灰硫黄合剤とギ酸カルシウム水溶剤（商品名：エコルーキー）の2剤で、それぞれの登録内容は表5のとおりです。なおミツバチを放飼する場合は、摘花剤散布前に養蜂業者へ連絡・確認し、事前にミツバチを撤去する等必要な対策を講じたうえで使用してください。

2) 摘果剤

マイクロデナポン水和剤 85 を用います。登録内容は表5のとおりで、散布時期は「ふじ」で満開2週間後、他の品種で満開3週間後となり、果径を散布時期の基準とする場合は、頂芽の中心果の横径が「ふじ」で10mm前後を目安とします。ただし幼果の肥大は地域や年により異なるので、暦日と果実横径の両方で散布時期を判断し、登録の範囲内（満開後2～3週間頃）で使用しましょう。

またマイクロデナポン水和剤85の摘果剤としての適用作物名が、平成19年に個々の品種名から「りんご」に変更となりました。効果が確認されている品種及び過剰落果の可能性があり使用を差しひかえる品種が示されていますが（表5）、他の品種に使用する際には、効果や薬害を確認した上で使用してください。

表5 摘花剤・摘果剤の登録内容

商品名	使用目的	使用基準		使用方法	
		使用時期	使用回数	散布量・濃度等	散布方法
石灰硫黄合剤	摘花	満開後	2回	100～120倍 360L以上/10a	立木全面散布
エコーキー	摘花	満開日 追加散布を要する場合は 2～3日後に1回	2回以内	100～150倍 300～600L/10a	立木全面散布
マイクロデナポン水和剤85	摘果	満開後2～3週間頃	1回	1,200倍 400L以上/10a	散布

<マイクロデナポン水和剤85の品種についての注意事項>

項目	品種名
効果の確認されている品種	旭、祝、印度、王林、きおう、紅玉、国光、さんさ、シナノスイート、シナノゴールド、ジョナゴールド、千秋、つがる、ハックナイン、ふじ、北斗、むつ、陽光
使用を差し控える品種	デリシャス系統、秋映、北紅、世界一

5 病害虫防除

病害虫発生予察情報によると、病害では腐らん病の発生量が「やや多」、虫害ではカメムシ類の越冬量が多いと推察されるため、発生量が「やや多」と予報されています。

腐らん病はわい性樹でも近年増加傾向にあり、開花期前後は腐らん病を発見しやすい時期ですので、園地をよく見回り、早期発見、早期治療を徹底してください。

カメムシ類の越冬成虫の飛来は、落花期前後から多くなるので、この時期から特に注意して観察を行い、大量の飛来が確認された場合は、効果のある薬剤を特別散布して下さい。

また、昨年秋期にハダニ類が多発した園地では、早期に発生することが考えられ、落花期に殺ダニ剤を散布する必要も出てきます。発生状況をよく確認して防除するようにしましょう。

なお気温が高く推移していることで、他の病害虫についても例年より早く発生することが想定されます。予察情報や自園の状態によく注意し、適期防除に努めてください。

ぶどう

1 生育状況

紫波町赤沢の定点観測によると、キャンベルの発芽はまだ確認されていませんが（平成：5月2日）、気温が平年より高めで経過していますので、ぶどうでも生育が早まると考えられます。

ぶどうについても発芽以降は耐凍性が急激に低下しますので、場合によっては凍霜害防止対策が必要となります。防止対策はりんごに準じます。

2 管理の要点

(1) 芽かき

本葉6～7枚期までは、主として前年の貯蔵養分でまかなわれているため、芽かきが早いほど養分の浪費が少なく経済的ですが、生育の様子を見ながら数回に分けて実施し、徐々に目標数に近づけるようにします。

なお晩霜や強風の恐れのある場合は、仕上げ時期をある程度遅らせますが、遅すぎると新梢の生育が遅れ、房重も小さくなりますので注意しましょう（図4）。

長梢せん定では、最初副芽を中心にかき、1節に1芽とします。その後混み合うところを中心に、枝の強さに合わせて数回芽かきをし、目標数に近づけて行きます。

短梢せん定では、長梢せん定と同様の手順で進めますが、腕枝が長くならないよう、通常は2芽のうち基部の芽を残します。

霜害のあったほ場では、芽かきを遅らせ、開花、結実を確認後不要な枝を間引いていきます。

(2) 新梢管理

誘引は、誘引可能な長さとなり、風害の危険が無くなった頃から開始しましょう。

(3) 病虫害防除

発芽や開花などの生育ステージに合わせて防除を実施しますが、防除前には枝幹の粗皮や巻きひげ等の除去を行い、樹上の病虫害密度を下げると効率が上がります。

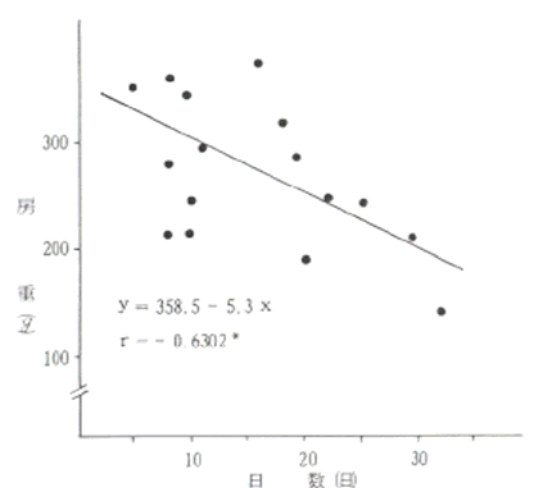


図4 発芽から芽かきまでの日数と房重
(昭和57～58)

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日
～6月15日]

急ぐより 家族の笑顔を大切に 想う心で ゆとりの仕事

次号は5月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。